

2024年度(公社)日本雪氷学会北信越支部総会

期日： 2024年6月1日（土）13:15～14:00

場所： 福井大学文京キャンパス 総合研究棟 I 2階 総合大2会議室（A会場）
（福井市文京3丁目9番1号）

議事次第

議題0．前回の議事録

議題1．2023年度北信越支部事業報告・収支決算報告および監査報告

議題2．2024年度北信越支部事業計画案および予算計画

議題3．2024年度日本雪氷学会北信越支部賞受賞者と授賞理由

議題4．2024年度雪氷研究大会の開催準備状況について

議題5．その他

議題0.

公益社団法人日本雪氷学会北信越支部 2023年度総会議事録

日 時：2023年6月3日 13:20～14:10

場 所：富山大学 A238講義室

出席者：32名

議 題：

議題0. 前回の議事録

議題1. 2022年度北信越支部事業報告・収支決算報告および監査報告

議題2. 2023年度北信越支部業計画案および予算計画

議題3. 2023年度日本雪氷学会北信越支部賞受賞者と授賞理由

議題4. 2024年度雪氷研究大会の開催場所（会場）と大会期間について

議題5. 支部役員の改選

議題6. その他

(別紙1：2023年度北信越支部総会資料)

審議結果：

議題1. 2022年度事業報告・収支決算および監査結果について別紙1のとおり報告され、承認された。

議題2. 2023年度事業計画・予算案が別紙1のとおり提案され、承認された。

議題3. 2023年度日本雪氷学会北信越支部賞受賞者と授賞理由が2023年度北信越支部賞受賞候補者選定委員会委員長より別紙1のとおり報告された。

議題4. 2024年度雪氷研究大会の開催場所（会場）と大会期間について支部長から別紙1のとおり報告された。

議題5. 2023・2024年度支部役員の改選について議論され、副支部長・理事・監事が別紙2のとおり選任された。河島支部長から新理事による理事会で議決された顧問・評議員が別紙3のとおり報告された。河島支部長より別紙4のとおり幹事長・幹事が選任された。

議題6. 編集担当幹事から雪氷北信越43号の発刊に向けた原稿依頼について説明があった。幹事長から、講演事業積立基金の北信越支部割り当て分の活用の促進および、特定目的事業準備基金の活用について説明があった。

2023 年 6 月 3 日

議長 河島 克久 （公印省略）

2023 年度北信越支部事業報告・収支決算報告および監査報告

【2023 年度 事業報告】

1. 研究発表会

2023 年度北信越支部研究発表会・製品発表検討会（2023 年度北信越支部大会）

日時：2023 年 6 月 3 日（土）11:00～16:45

場所：富山大学理学部 1 号館

参加者：47 名

研究発表：29 件

プログラム：

研究発表会	11:00～12:00
総会	13:20～14:10
支部賞授賞式	14:10～14:20
研究発表会	14:30～16:45

2. 研修会等

2.1 講演会

今年の雪速報会 2022-23

日時：2023 年 5 月 24 日（水）13:30～16:40

場所：まちなかキャンパス長岡 301（ライブ配信あり）

共催：NPO 法人水環境技術研究会，（公社）日本雪氷学会北信越支部，（国研）防災科学技術研究所雪氷防災研究センター，（一社）北陸地域づくり協会

参加者：66 名

プログラム：

開催挨拶：上石勲（防災科学技術研究所）

第一部：今年の雪の気象学的特徴について 司会：平島寛行（防災科学技術研究所）

北陸地方を中心とした 22/23 冬の天候と降雪の特徴：山本浩（新潟地方气象台）

2022/23 冬季の大雪をもたらした大気循環場の特徴：本田明治（新潟大学）

第二部：今年の雪への対応について 司会：太田あみ（新潟県十日町地域整備局）

2022 年 12 月と 2023 年 1 月の新潟県内における大雪による道路雪氷障害：上石勲（防災科学技術研究所）

（紙面発表）長岡国道事務所における今冬の取り組み：久保光晶（国土交通省北陸地方整備局）

ネクスコ東日本新潟支社長岡管理事務所管内における 2022～2023 冬期の雪氷対策の取り組み：

川上圭介（東日本高速道路株式会社）

2022-23 年冬期の新潟県内の大雪による倒木被害：勝島隆史（森林総合研究所）

地球温暖化による雪崩への影響：勝山祐太（森林総合研究所）

第三部

総合討論：瀬戸民枝（新潟県魚沼地域振興局）

閉会挨拶：相村成一（北陸地域づくり協会）

公開講演会「雪形って知ってますか？」って知っていますか？

日時：2023 年 12 月 8 日（金）15:00～17:00

場所：十日町情報館 視聴覚ホール

主催：（公社）日本雪氷学会北信越支部

後援：国際雪形研究会

参加者：41 名

プログラム：

雪形って知ってますか？：納口恭明（国際雪形研究会雪形ウォッチング世話人）

魚沼地方の雪形：遠藤八十一（国際雪形研究会教祖）

わたしの雪形・雪形もどき：和泉薫（国際雪形研究会シニア会員 C）

2.2 見学会

第 28 回雪形ウォッチング妙高はね馬大会

日時：2023 年 4 月 22 日（土）11:00～12:00

場所：新潟県妙高市はね馬公園駐車場

主催：国際雪形研究会，（公社）日本雪氷学会北信越支部

参加者：28 名

2.3 学習会

第 16 回新潟地方気象台—防災科学技術研究所雪氷防災研究センター合同談話会

日時：2024 年 2 月 27 日（火）13:15～16:15

場所：防災科学技術研究所雪氷防災研究センター2F 大会議室，オンライン

共催：（国研）防災科学技術研究所雪氷防災研究センター，新潟地方気象台，（公社）日本雪氷学会北信越支部

参加者：27 名（内，オンライン参加 16 名）

プログラム：

開会挨拶：中村一樹（防災科学技術研究所）

新潟県中越地域の丘陵斜面の影響を受けた可能性のある降雪分布に関する事例解析—2019 年 2 月 7 日の事例—：山下克也（防災科学技術研究所）

雪関連気象防災情報高度化に資する基礎技術開発の現状と今後：庭野匡思（気象研究所）

パラメタリゼーション選択および気象要素の不確実性に対する積雪変質モデル SMAP の感度実験：中畑輝之（新潟地方気象台）

降雪集中に対する地形と陸風の影響：中井専人（防災科学技術研究所）

北陸地方平地の降雪量の予測に関する調査研究：安藤直貴（新潟地方気象台）

閉会挨拶：中村誠（新潟地方気象台）

大雪による立ち往生の効果的な対策に向けて ～スタックの発生メカニズムと脆弱性評価～

講師：藤本明宏（福井大学学術研究院工学系部門准教授）

日時：2024 年 3 月 4 日（月）16:30～17:30

場所：新潟大学災害・復興科学研究所 1F プレゼンテーションスペース，オンライン

共催：新潟大学災害・復興科学研究所，（公社）日本雪氷学会北信越支部

参加者：32 名（内，オンライン参加 19 名）

2.4 講習会

積雪観測&雪結晶撮影講習会（オンライン講習会）

日時：2023 年 12 月 23 日（土）13:00～17:45

場所：オンライン

共催：（公社）日本雪氷学会北信越支部，（公社）日本雪氷学会関東・中部・西日本支部，（国研）防災科学技術研究所

参加者：67 名

プログラム：

雪結晶で読み解く雲の心：荒木健太郎（気象研究所）

雪結晶・積雪粒子撮影法：藤野丈志（株式会社興和）

積雪の変化と観測方法：勝島隆史（森林総合研究所）

積雪観測&雪結晶撮影講習会（現地講習会）

日時：2024年2月3日（土）13:00～17:45

場所：防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター（新潟県長岡市栖吉町前山）

共催：（公社）日本雪氷学会北信越支部，（公社）日本雪氷学会関東・中部・西日本支部，（国研）防災科学技術研究所

参加者：8名

プログラム：

雪結晶で読み解く雲の心：荒木健太郎（気象研究所）

雪結晶・積雪粒子撮影法：藤野丈志（株式会社興和）

積雪の変化と観測方法：勝島隆史（森林総合研究所）

野外実習（防災科学技術研究所）

3. 普及・啓発

3.1 支部ホームページの運営（<http://www.seppyo.org/hse/>）

大会プログラム・予稿集の掲載，および学習会等イベントの広報などの情報を随時更新
トップページの「お知らせ」等を主にホームページのデザインを改善

3.2 教育普及に関する共催事業

積雪観測&雪結晶撮影講習会（オンライン講習会）

日時：2023年12月23日（土）13:00～17:45

場所：オンライン

共催：（公社）日本雪氷学会北信越支部，（公社）日本雪氷学会関東・中部・西日本支部，（国研）防災科学技術研究所

参加者：67名

プログラム：

雪結晶で読み解く雲の心：荒木健太郎（気象研究所）

雪結晶・積雪粒子撮影法：藤野丈志（株式会社興和）

積雪の変化と観測方法：勝島隆史（森林総合研究所）

積雪観測&雪結晶撮影講習会（現地講習会）

日時：2024年2月3日（土）13:00～17:45

場所：防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター（新潟県長岡市栖吉町前山）

共催：（公社）日本雪氷学会北信越支部，（公社）日本雪氷学会関東・中部・西日本支部，（国研）防災科学技術研究所

参加者：8名

プログラム：

雪結晶で読み解く雲の心：荒木健太郎（気象研究所）

雪結晶・積雪粒子撮影法：藤野丈志（株式会社興和）

積雪の変化と観測方法：勝島隆史（森林総合研究所）

野外実習（防災科学技術研究所）

4. 2023 年度北信越支部賞の表彰

大沼賞：山口悟 会員（国立研究開発法人防災科学技術研究所雪氷防災研究センター 上席研究員）

「湿雪の水分移動と比表面積の測定に基づく積雪微細構造に関する先駆的研究」

雪氷功労賞：町田誠 会員（町田建設株式会社 代表取締役社長）

「長年にわたる雪崩を中心とした雪氷研究と支部活動への貢献」

5. 出版事業5.1 支部機関誌

「雪氷北信越」第43号を7月に発行した。北信越支部ホームページにて公開。

6. 管理事項6.1 北信越支部総会

2023 年 6 月 3 日（土）、富山大学理学部 1 号館

6.2 理事・幹事会議

第1回理事・幹事合同会議：2023 年 4 月 14 日（金）～4 月 24 日（月）、文書審議

第2回理事・幹事合同会議：2023 年 5 月 23 日（火）～5 月 31 日（水）、文書審議

第3回理事・幹事合同会議：2023 年 12 月 8 日（金）、十日町市情報館

6.3 顧問・評議員会

2023 年 12 月 8 日（金）、十日町情報館

【2023 年度 収支決算報告】

		2023年度予算 (A)	2023年度執行 (B)	増減 (B)-(A)
収入		288,000	33,750	△ 254,250
会費収入	支部会員費	0	0	0
事業収入	研究発表会収入	35,000	27,500	△ 7,500
	研修会講演会等収入	10,000	4,000	△ 6,000
	出版収入 北信越支部機関誌	10,000	2,250	△ 7,750
雑収入		0	0	0
	本部からの繰り入れ	233,000	0	233,000
支出		288,000	278,856	△ 9,144
事業費		195,000	194,452	△ 548
1調査・研究		0	0	0
2研究会研修会	研究発表会 北信越支部大会	70,000	27,380	△ 42,620
	研修会等 講演、見学、学習会	25,000	103,574	78,574
	普及・啓発 教育普及事業	25,000	0	△ 25,000
	褒賞 北信越支部褒賞費	25,000	9,174	△ 15,826
	3出版事業 支部機関誌 北信越支部機関誌	50,000	54,324	4,324
	その他出版	0	0	0
管理費		93,000	84,404	△ 8,596
	事務局費	8,000	4,044	△ 3,956
	会議費	85,000	80,360	△ 4,640
	支払手数料	0	0	0
	役員選挙費	0	0	0
	雑費	0	0	0

基金による支出(94710円)

2023 年度北信越支部監査報告書 (飯田監事)

2024 年 5 月 10 日

公益社団法人日本雪氷学会北信越支部 監査報告書

公益社団法人日本雪氷学会
北信越支部長 河島 克久 殿

公益社団法人日本雪氷学会
北信越支部監事

飯田 肇 

2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日までの 2023 年度における北信越支部会計及び業務の監査を、次のとおり報告する。

1. 監査の方法

- (1) 会計監査について、予算執行内容、予算規模、収支バランスについて確認した。
- (2) 業務監査について、業務執行の妥当性を検討した。

2. 監査意見

(1) 会計監査

2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日に実施された北信越支部の予算執行内容、予算規模、収支バランスを監査した結果、正確妥当なことを認めます。

(2) 事業監査

北信越支部の活動は、別途作成された支部活動報告書のとおり、実施されていたことを認めます。

各事業は、公益性も高く充実した内容であることを確認しました。ただし、一部事業について参加者数が少ないものが見受けられたため、事業の広報についてより工夫されることを望みます。

2023 年度北信越支部監査報告書 (長峰監事)

2024 年 5 月 12 日

公益社団法人日本雪氷学会北信越支部 監査報告書

公益社団法人日本雪氷学会
北信越支部長 河島 克久 殿

公益社団法人日本雪氷学会
北信越支部監事
長峰 聡



2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日までの 2023 年度における北信越支部会計及び業務の監査を、次のとおり報告する。

1. 監査の方法

- (1) 会計監査について、予算執行内容、予算規模、収支バランスについて確認した。
- (2) 業務監査について、業務執行の妥当性を検討した。

2. 監査意見

(1) 会計監査

2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日に実施された北信越支部の予算執行内容、予算規模、収支バランスを監査した結果、正確妥当なことを認めます。

(2) 事業監査

北信越支部の活動は、別途作成された支部活動報告書のとおり、実施されていたことを認めます。

2024 年度北信越支部事業計画案および予算計画

【2024 年度 事業計画案】

事業分類	事業小分類	事業名	担当	予算の有無
1調査・研究	調査			
	研究			
2研究会研修会	研究発表会	北信越支部 研究発表会・製品発表検討会の開催（福井市）	北信越支部	有
	研修会等	北信越支部 講演会の開催（2回）	北信越支部	有
		北信越支部 見学会の開催（1回）	北信越支部	有
		北信越支部 学習会の開催（3回）	北信越支部	有
		北信越支部 積雪観測講習会の開催（1回）	北信越支部	有
	普及・啓発	北信越支部 ホームページの運営	北信越支部	無
		北信越支部 教育普及に関する事業の開催（2回）	北信越支部	有
	褒賞	2024年度北信越支部賞の表彰	北信越支部	有
3出版事業	学会誌			
	支部等機関誌	北信越支部 機関誌「雪氷北信越」44号の刊行	北信越支部	有
4その他	管理事項	北信越支部 総会の開催	北信越支部	無
		北信越支部 理事・幹事合同会議の開催	北信越支部	有
		北信越支部 顧問・評議委員会の開催	北信越支部	有

【2024 年度 予算計画】

		2023年度予算 (A)	2024年度予算 (B)	増減 (B)－(A)
収入		288,000	288,000	0
会費収入	支部会員費	0	0	0
事業収入	研究発表会収入	35,000	35,000	0
	研修会講演会等収入	10,000	10,000	0
	出版収入	10,000	10,000	0
	北信越支部機関誌	10,000	10,000	0
雑収入		0	0	0
本部からの繰り入れ		233,000	233,000	0
支出		288,000	363,000	75,000
事業費	事業費 計	195,000	270,000	75,000
	1調査・研究	0	0	0
2研究会研修会	研究発表会	70,000	70,000	0
	北信越支部大会	70,000	70,000	0
	研修会等	25,000	100,000	75,000
	講演、見学、学習会	25,000	100,000	75,000
	普及・啓発	25,000	15,000	△ 10,000
	教育普及事業	25,000	15,000	△ 10,000
	褒賞	25,000	25,000	0
	北信越支部褒賞費	25,000	25,000	0
3出版事業	支部機関誌	50,000	60,000	10,000
	北信越支部機関誌	50,000	60,000	10,000
	その他出版	0	0	0
管理費	管理費 計	93,000	93,000	0
	事務局費	8,000	8,000	0
	会議費	85,000	85,000	0
	支払手数料	0	0	0
	役員選挙費	0	0	0
	雑費	0	0	0

2024 年度日本雪氷学会北信越支部賞受賞者と授賞理由

2024 年 4 月 2 日～8 日までの間、リモート会議システム（Zoom）とメールによる審議を併用し、2024 年度北信越支部賞受賞候補者選定委員会（上石勲（委員長）、飯田肇、石坂雅昭、上村靖司、オブザーバー：河島克久（支部長））が開催された。推薦された支部賞候補者から、推薦書ならびに参考資料に基づき慎重に議論した結果、2 件が受賞候補に選定された。その後、5 月 1 日～8 日の 2024 年度第 1 回北信越支部理事・幹事合同会議（文書審議）で承認された。

2024 年度日本雪氷学会北信越支部賞受賞者と件名は以下の通りである。なお、授賞理由および関連論文を次のページに示す。

大沼賞：小川 弘司 氏（石川県立大学，客員研究員）

件 名：白山千蛇ヶ池雪溪の長期モニタリングと雪面熱収支に関する研究

雪氷功労賞：田村 盛彰 氏

件 名：雪国生活の向上に資する雪氷関連技術の研究・開発と支部活動への貢献

大沼賞：小川 弘司 氏（石川県立大学，客員研究員）

件 名：白山千蛇ヶ池雪溪の長期モニタリングと雪面熱収支に関する研究

理 由：

多年性雪溪の規模は年ごとの気象条件（冬期の涵養量，夏期の消耗量）に敏感に応答して大きく変動する。そのため，多年性雪溪は気候変動の指標として有用であることが古くから指摘されてきたが，山岳地に位置するため現地調査の継続が容易ではなく，長期間にわたって連続的にモニタリングされている雪溪は決して多くない。

受賞者の小川弘司氏は，白山の山稜西側の標高 2,570 m に位置する多年性の千蛇ヶ池雪溪を対象として，その規模を 1981 年以降，連続的にモニタリングするとともに^{6), 8), 9), 12)}，過去に撮影された写真（空中写真，現地撮影写真）などから 1981 年以前の規模を復元する取り組みを行ってきた^{4), 11)}。その結果，不明の年があるものの，1969 年以降の夏期規模（8 月 10 日前後）と 1961 年以降の越年規模（10 月 10 日前後）を復元することに成功し，両方の面積・体積に減少トレンドが現れていることを明らかにした。また，これらの雪溪の規模と白山近傍の山麓や平地における気象庁の観測データとの関係を調べ，夏期規模と越年規模の年々変動が消耗期よりも涵養期の気象要素と相関が強いことや，上記の減少トレンドが涵養量よりも消耗量に起因している可能性があることなどを示した^{2), 7), 10)}。

さらに，近年では千蛇ヶ池雪溪の雪面低下量計測と気象観測を 3 夏期間にわたって行い，夏期における雪面熱収支特性や雪溪の融雪過程と気象との関係について分析している^{1), 3), 5)}。この分析から，年ごとの雪面低下量への寄与が高いのは正味短波放射量であるが，日積算雨量 50 mm 以上，日平均風速 7 m s⁻¹ 程度以上の悪天候イベントの発生頻度次第で潜熱輸送量が大きく変動し，年ごとの雪面低下量に違いが生じうることを明らかにした。

以上のような小川弘司氏の長年にわたる地道な調査研究活動は，気候変動に伴うわが国の山岳雪氷圏変動の理解や高山生態系の将来予測に大きく貢献するものであり，大沼賞に相応しい。

関連論文

- 1) 小川弘司，岩佐海杜，藤原洋一：白山・千蛇ヶ池雪溪における 3 夏期間の雪面熱収支特性，雪氷，85(2)，115-131，2023.
- 2) 小川弘司，藤原洋一：白山・千蛇ヶ池雪溪の長期変動解析について，日本山の科学会 2023 年秋季研究大会一般研究発表要旨集，O-05，2023.
- 3) 小川弘司，岩佐海杜，藤原洋一：白山・千蛇ヶ池雪溪における 3 夏期間の雪面熱収支特性について，雪氷北信越，43，16，2023.
- 4) 小川弘司：白山千蛇ヶ池雪溪における体積の抽出，雪氷研究大会（2019・山形）講演要旨集，259，2019.
- 5) 岩佐海杜，藤原洋一，小川弘司，長野峻介，一恩英二：白山千蛇ヶ池雪溪における融雪熱収支特性～千蛇ヶ池は多年性でなくなってしまうのか～，2019 年度日本生態学会中部地区大会講演要旨集，9，2019.
- 6) 小川弘司：歴史史料から見た白山千蛇ヶ池雪溪，石川県白山自然保護センター研究報告，44，11-15，2018.
- 7) 小川弘司，藤原洋一：白山千蛇ヶ池雪溪の夏季から秋季の縮小過程，雪氷北信越，38，25，2018.
- 8) 小川弘司，伊藤文雄：白山千蛇ヶ池雪溪の越年規模の経年変化，雪氷北信越，36，32，2016.
- 9) 小川弘司，伊藤文雄：白山千蛇ヶ池雪溪の長期モニタリング，2007 年度日本地理学会春季学術大会発表要旨集，144，2007.
- 10) 小川弘司，伊藤文雄：白山千蛇ヶ池雪溪の変動と気象との関係，2007 年度日本雪氷学会全国大会講演予稿集，187，2007.
- 11) 小川弘司：白山の万年雪，千蛇ヶ池雪溪の変動，石川県白山自然保護センター普及誌はくさん，34(1)，7-12，2006.
- 12) 伊藤文雄，小川弘司：白山千蛇ヶ池雪溪の 1981 年以降の変動，雪氷北信越，23，43，2003.

雪氷功労賞：田村 盛彰 氏

件 名：雪国生活の向上に資する雪氷関連技術の研究・開発と支部活動への貢献

理 由：

田村盛彰氏は高校の教員を務めながら、利雪克雪という言葉が使われていた中、北陸地域での雪氷災害を防止・克服する実用的な研究と技術開発を遂行してきた。退職後も田村雪氷計測研究所を設立し、より積極的に雪氷研究・開発を継続的に行っている。

中でも降雪や積雪による災害防除に対処するための研究業績が顕著であり、降雪に関しては長岡地域での気温と降水種別の関係についていち早く解析し、当分野におけるその後の研究発展に大きく貢献している。また、雪氷災害対策に関わる実用的な装置の開発にも尽力し、消雪パイプの制御にも使われている傾斜平板型降雪検知器の開発や、軽い降雪にも対応可能な、全く新しい測定原理に基づく極めて微小な降水量を分単位で検出できる田村式降雪・降雨強度計を開発するなど顕著な成果を創出しており、1993年度に新設された支部賞「雪氷技術賞」の第一回の受賞者となりその先駆性を示した。また、上記の功績により新潟県技術賞(1978)、日本雪氷学会賞技術賞(2000)を受賞している。さらにこれらの技術を応用し、消雪装置の開発や運用を行い、兼ねてから目指した雪国生活の向上・安定に資する業績を残している。

日本雪氷学会では1972年から活動を開始し、北信越支部では1996年度から2008年度まで支部理事を、2009年度から2012年度まで支部評議員を務めた。さらに、支部が開催する積雪観測法講習会などの積雪観測法の指導においては1988年度から2002年度までの長きにわたり中心的な役割を果たしたほか、「雪氷北信越」の編集担当、日本雪氷学会賞選考委員などを歴任し、支部の発展に大きく寄与してきた。

以上のように、田村盛彰氏の雪氷学、雪国生活の向上に関する技術開発、支部活動への貢献は多大なものであり、雪氷功労賞に相応しい。

関連論文

- 1) 田村盛彰, 1990: 滑落制御方式による屋根雪処理方式, 雪氷, 52(2), 81-90.
- 2) 田村盛彰, 1990: 長岡における気温と降水種出現頻度・降雪量の関係について, 雪氷, 52(4), 251-257.
- 3) 田村盛彰, 吉村達四郎, 宮内 信之助, 1991: ヒーターの有無による樹脂被覆された屋根上からの雪の滑落, 日本雪工学会誌, 7(4), 2-7.
- 4) Moriaki Tamura, 1993: An automatic system for controlling snow on roofs, *Annals of Glaciology*, 18, 113-116.

2023-2024 年度 (公社) 日本雪氷学会北信越支部役員

支部長 (*本部理事)

河島克久* 新潟大学災害・復興科学研究所教授

副支部長

杉浦幸之助* 富山大学学術研究部都市デザイン学系教授

竹内由香里 森林総合研究所十日町試験地長

支部顧問

花角英世	新潟県知事
新田八朗	富山県知事
宮崎悦男	小千谷市長
関口芳史	十日町市長
宮元 陸	加賀市長
梅村晃由	長岡技術科学大学名誉教授
和田 惇	元北陸建設弘済会理事長

支部評議員

森永正幸	新潟県知事政策局長兼行財政改革監
竹内延和	富山県生活環境文化部長
高橋英樹	小千谷市建設課長
高崎洋一	十日町市建設部長
古川義純	中谷宇吉郎雪の科学館館長
齋藤浩之	(株) 興和代表取締役社長／新潟県融雪技術協会会長
石坂雅昭	防災科学技術研究所客員研究員
和泉 薫	新潟大学名誉教授
遠藤八十一	国際雪形研究会代表／元森林総合研究所十日町試験地主任
川田邦夫	雪環境研究塾塾長／富山大学名誉教授
佐藤和秀	長岡工業高等専門学校名誉教授
外蔵貴浩	北陸電力送配電(株) 電力流通部送電チーム統括課長
鈴木啓助	信州大学名誉教授・特任教授／大町山岳博物館館長
竹井 巖	元北陸大学薬学基礎教育センター教授
古川大助	(株) アルゴス代表取締役
町田 誠	町田建設(株) 代表取締役
丸山敏介	新潟電機(株) 代表取締役
横山宏太郎	元中央農業総合研究センター

支部理事 (*本部理事)

勝島隆史*	森林総合研究所十日町試験地主任研究員
上石 勲	防災科学技術研究所雪氷防災研究センター契約研究員
上村靖司*	長岡技術科学大学工学部機械系教授
吉柳岳志	土木研究所雪崩・地すべり研究センター所長
熊倉俊郎	長岡技術科学大学工学部環境社会基盤系准教授
齋藤隆幸	(株) スノーテック新潟代表取締役
島田 亙*	富山大学学術研究部理学系准教授
瀬戸民枝	新潟県土木部都市局都市整備課課長

中井専人	防災科学技術研究所雪氷防災研究センター契約研究員
中村一樹	防災科学技術研究所雪氷防災研究センターセンター長
藤野丈志	(株)興和水工部技師長
堀 雅裕	富山大学学術研究部都市デザイン学系教授
本田明治	新潟大学理学部教授
町田 敬*	町田建設(株)取締役
松元高峰*	新潟大学災害・復興科学研究所特任准教授
本吉弘岐	防災科学技術研究所雪氷防災研究センター主任研究員
山口 悟	防災科学技術研究所雪氷防災研究センター上席研究員
山田忠幸	山田技研株式会社代表取締役
渡辺幸一	富山県立大学工学部教授

支部監事

飯田 肇	立山カルデラ砂防博物館学芸課長
長峰 聡	元新潟地方気象台観測予報グループ

支部幹事長

本吉弘岐	防災科学技術研究所雪氷防災研究センター主任研究員
------	--------------------------

支部幹事 ¹⁾庶務, ²⁾会計, ³⁾雪氷北信越編集, ⁴⁾支部だより, ⁵⁾HP の各担当者

伊藤陽一 ³⁾	防災科学技術研究所雪氷防災研究センター契約研究員
太田あみ	新潟県南魚沼地域振興局地域整備部道路課主任
小川克昌	(有)アサップ代表取締役
勝山祐太	森林総合研究所十日町試験地研究員
加藤 務	テクノかとう代表
加藤正明	長岡市立科学博物館学芸員
木戸瑞佳	富山県環境科学センター副主幹研究員
佐々木明彦	国士舘大学文学部准教授
杉原幸信	長岡技術科学大学工学部機械系助教
砂子宗次朗	防災科学技術研究所雪氷防災研究センター契約研究員
新屋啓文 ¹⁾	新潟大学災害・復興科学研究所准教授
浜田 崇 ²⁾	長野県環境保全研究所自然環境部主任研究員
平島寛行	防災科学技術研究所雪氷防災研究センター主任研究員
福井幸太郎	立山カルデラ砂防博物館主任学芸員
藤本明宏 ⁴⁾	福井大学学術研究院工学系部門准教授
皆巳幸也	石川県立大学生物資源環境学部准教授
村井昭夫	石川県立大学客員研究員
山下克也 ⁵⁾	防災科学技術研究所雪氷防災研究センター主任研究員

公益社団法人日本雪氷学会北信越支部 支部規程施行内規

第1条 本支部は、公益社団法人日本雪氷学会支部規程第1条に基づき、公益社団法人日本雪氷学会北信越支部と称する。

第2条 本内規は、支部規程第2条2項に基づき、本支部における支部規程の施行に必要な事項を定めるものである。

第3条 本支部の会員は、北信越地方（新潟県、長野県、富山県、石川県、福井県）に在住する公益社団法人日本雪氷学会の会員とする。また、他支部に所属する会員であっても、本支部に所属することを希望する場合は、重複所属することを妨げない。

第4条 本支部に次の役員をおく。

支部長	1名
副支部長	若干名
支部顧問	若干名
支部評議員	若干名
支部理事	若干名（副支部長、幹事長を含む）
支部監事	2名
支部幹事	若干名

第5条 支部長は、支部からの推薦に基づき、定款施行細則第28条により、定款第20条に定める理事の中から理事会において選出する。

第6条 副支部長、支部理事および支部監事は支部総会において、支部会員の中から選任する。

第7条 支部の幹事長は支部理事の中から支部長が委嘱する。支部幹事は支部会員の中から支部長が委嘱する。

第8条 支部長は本支部を代表しその会務を総理する。

第9条 副支部長は支部長に事故ある場合、その職務を代行する。

第10条 支部理事会は支部長、副支部長、支部理事で構成され、支部会務執行に必要な協議を行う。支部理事会の議長は支部長とする。

第11条 支部監事は支部の事業ならびに会計を監査する。

第12条 支部幹事会は幹事長、幹事で構成され、支部長の命を受けて支部事業の企画及び会計ならびにその他の会務を処理する。

第13条 支部長の任期は2年とする。ただし連続する2期を超えて在任することはできない。支部長を除く役員の任期は2年とする。ただし再任を妨げない。その他は定款第24条の定めるところによる。

第14条 支部顧問および支部評議員は支部理事会の議決を経て支部長がこれを委嘱する。支部顧問及び支部評議員は本支部の発展に寄与するものとする。

第15条 本支部は毎年1回定時総会を開くほか必要に応じ臨時総会を開く。

第16条 総会においては下記事項の承認を受けなければならない。

事業報告・収支決算報告
事業計画・予算案
役員の決定
支部規程施行内規の変更
その他重要な事項

第17条 本支部の事業年度は毎年4月より翌年3月までとする。

附 則

本内規は2013年5月11日より施行する。